



日本包装専士会 Institute of Certified Packaging Professionals, Japan

日本包装専士会関西委員会では関西在住の会員向けに独自の活動を企画し、情報の共有化とコミュニケーションを図るため、関西ミニセミナー（見学会）を開催しています。9月度は工場見学会ということで、兵庫県西宮市の株式会社エフピコ西宮選別センターを見学しました。

【株式会社エフピコについて】～ホームページより抜粋

エフピコは企業としていち早くこの再資源化問題に取り掛かり、1990年にエフピコ方式のリサイクルをスタートしました。今では当たり前のように見るスーパーマーケットに置かれた使用済み容器の回収ボックス。それでも現在の使用済み食品トレーの回収率は約30%に留まり、この運動のさらなる広がりがが必要です。エフピコでは原油などの地下資源に対して使用済み容器を”地上資源”と呼んでいます。地上資源を繰り返し使い続けるリサイクル活動の輪を関係者の皆様のご協力のもと、進めています。

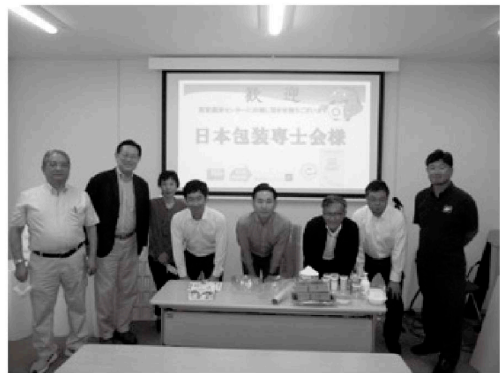
【西宮選別センターについて】

全国1万店舗を超える量販店等からトレイや透明容器を回収している。そのうち、関西エリアからの回収品を色別、材質別に選別して圧縮減容した状態まで加工している。その後、福山リサイクル工場で洗浄、粉碎、溶融押出、ペレット化してシーティング、トレイ成形され、製品化されている。シートは基本、再生材の両面にバージンフィルムをラミネートして衛生性と強度を担保している。



【エフピコ独自のリサイクル方式】

エフピコでは「エフピコ方式」といわれる効率的で無駄のないリサイクルを実現している。生活者、店舗、配送会社全員参加の取組みを基本に再資源化を進めている。



- ◆使用済みトレイ・透明容器を自社物流配送の帰りに有償引取りを行なっている。現在全国1万店舗以上の回収拠点がある。
- ◆回収品は選別センターで白色トレイと着色トレイに選別される。材質は発泡PS。
- ◆透明容器は2008年から回収を開始し、光学自動選別機（赤外線）にて材質別に分別している。材質比率はAPET50%、OPS30%、PPその他20%。
- ◆障がい者雇用も積極的に行なわれ、全社員の12.6%、すべて正社員として活躍している。
- ◆再生PS、PETは食品衛生法のガイドラインに準拠、PETボトルに関しては米国FDA認可のリサイクル処理機を使用している。
- ◆現在、再生PS樹脂は白色のみトレイ成形、製品化しているが、着色再生PS樹脂(主として黒色)も脱墨技術の進化に伴い、白色化が可能になったので、近々製品化していく。